【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号　★Ｄ-23-８-63
事業名　　臼澤人道橋整備事業

事業費　　347,018,200 円
（内訳：本工事費 323,312,000 円、測量設計費 23,706,200 円）

事業期間　平成 28 年度～令和４年度

事業目的・事業地区

二級河川小鎚川を挟んで立地する寺野地区、三枚堂地区を結ぶ歩行者用の動線を新たに設けるもの。

現在、両地区は臼澤橋（昭和 50 年架設）で結ばれているが、幅員 5.5m で歩車分離がされていないため、歩行者が通行する際に危険が伴うものとなっている。両地区では、防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業が実施されたことで地区内人口が増加し、これに伴う交通量も増加の傾向にある。新たな動線を整備することで、歩行者に与える影響の除却を目論む。

事業結果

平成 28 年度	町道寺野線（臼澤人道橋）整備に伴う測量設計業務委託	9,385,200 円
平成 30 年度	町道寺野線橋梁整備工事現場技術委託	4,212,000 円
令和元年度	町道臼澤高清水線（臼澤人道橋）修正設計業務委託	2,937,000 円
令和２年度	公共土木工事資材価格調査業務委託	528,000 円
令和２年度～令和４年度	町道臼澤高清水線橋梁整備工事	323,312,000 円
令和２年度～令和３年度	町道臼澤高清水線橋梁整備工事現場技術支援業務委託	2,904,000 円
令和３年度～令和４年度	町道臼澤高清水線橋梁整備工事現場技術支援（その２）業務委託	3,740,000 円

【事業概要】

橋梁上部工　　L＝52.5m、W＝3.0m
橋梁下部工　　橋台２基、橋脚１基
道路改良(歩道新設)　　L＝111.1m、W＝3.0～3.5m

事業の実績に関する評価

臼澤人道橋が完成し車両と歩行者の動線が分離されたことから、歩行者通行時の安全性を向上させることができたほか、臼澤橋に設けていた歩行帯も撤去できたことで車両も円滑に走行可能となったため、臼澤橋の利便性向上にもつながったといえる。

各種調査・分析・評価

①　事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

両地区間の連絡道路として機能しており、特に近傍バス停までの移動経路としての活用が見受けられる。

また、周辺地区住民の散策路としても利用されており、安全性の確保はもとより住民の健康増進に資する結果となっていることから、本事業は適切に活用されていると評価できる。

② コストに関する調査・分析・評価

本工事では、購入土及び他工区からの流用土を盛土し仮設作業ヤードとすることで施工スペースの確保を行った。流用土には復興事業により発生したもののほか、町単独事業等で発生したものも可能な限り利用することで購入土の多用を避けた。

また、調査設計費の積算は、設計業務等標準積算基準等により積算を行い、工事費の設計・積算は、公共土木工事標準積算基準等により積算を行い、いずれも大槌町財務規則等に基づき入札を執行し、業者を選定していることから妥当な事業費として判断できる。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

	事業期間		備考
	計画	実績	
調査・測量・設計	H27.12 ～ H28.3	H28.5 ～ R2.8	工法変更に伴う設計変更に時間を要したため
本体工事	H28.6 ～ H30.3	R2.10 ～ R4.12	入札不調及び関係者協議に伴う作業能率の低下のため

発注時点では、早期完成を目論み「仮桟橋」を用いて通年施工を行う計画としていたが、仮設材が近隣では取り扱われていなかったことから、遠隔地からの輸送を行わなければならず、コストと工期に多大な影響を与えることが分かった。そこで、「盛土により仮設作業ヤードを確保」し工事を実施することとした。非出水期のみに施工は限られたものの、工程への影響の緩和とコストを縮減し、工事を実施できた。

また、利害関係者である漁業協同組合の採捕事業等との調整により、作業能率を落とさなければならない場面もあったが、都度調整を図り事業の遂行に努めた。

度重なる入札不調により完成まで時間を要することとなったが、やむを得ない理由であることから、本事業の事業手法は適切であったと考えられる。

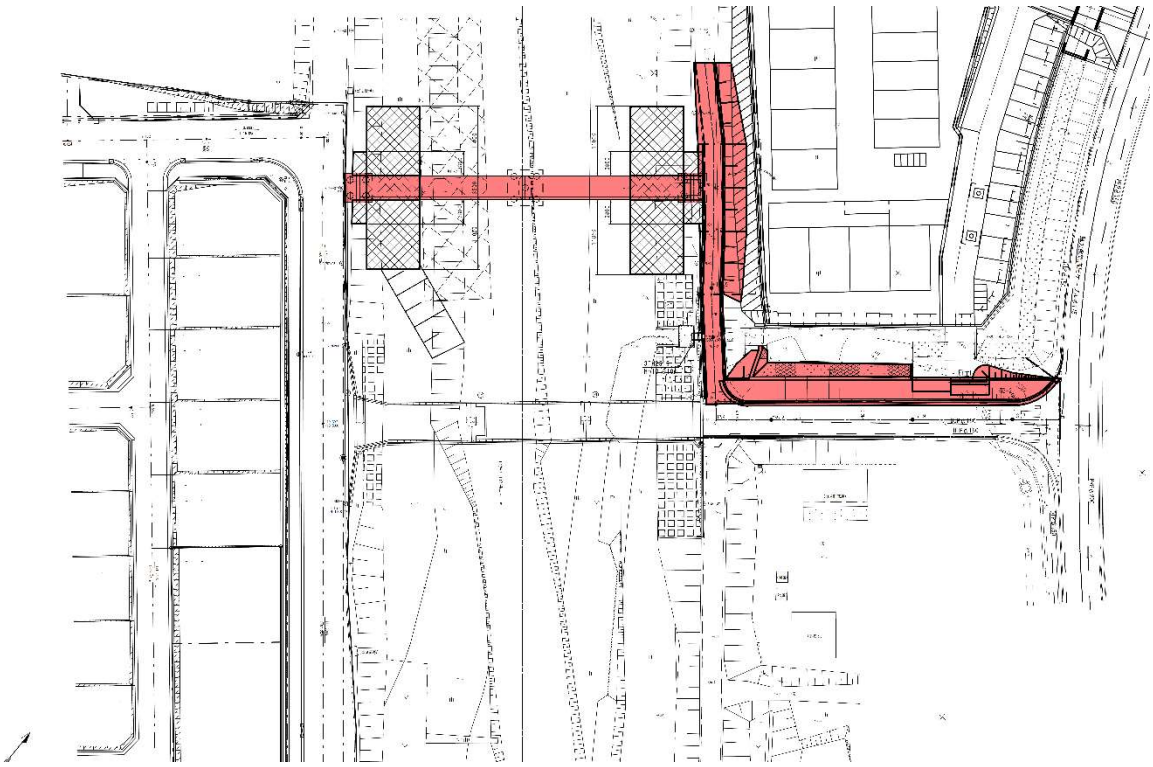
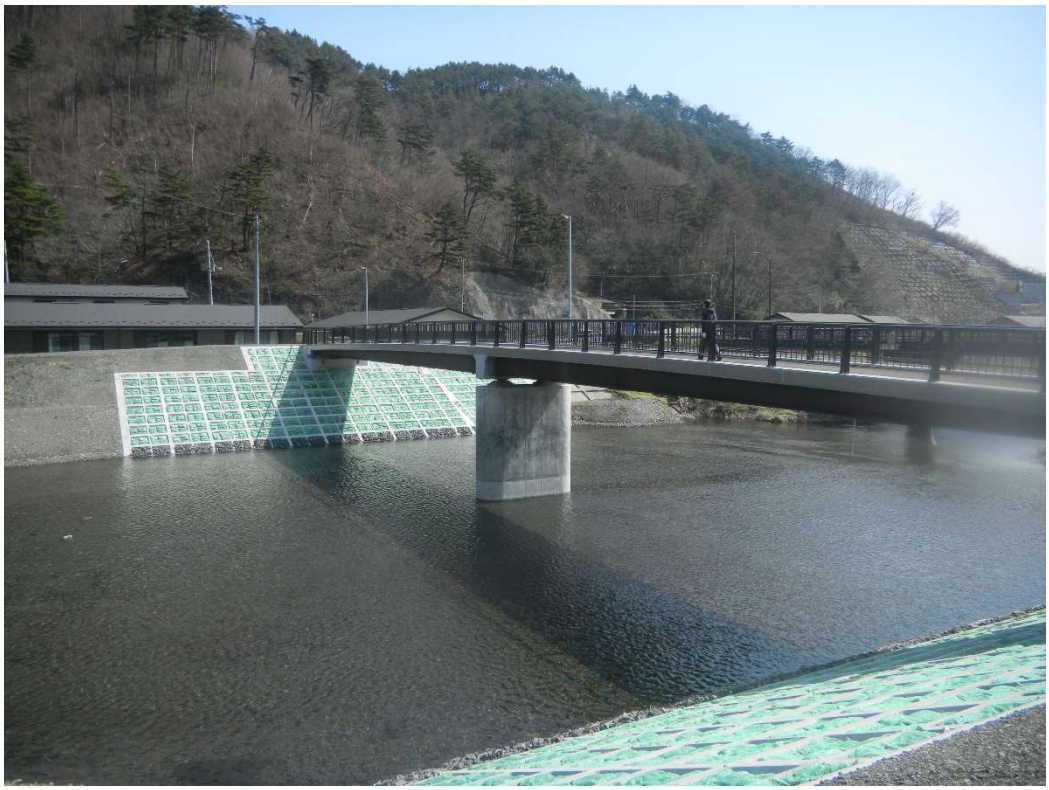
事業担当部局

大槌町地域整備課　電話番号：0193-42-8722

■位置図

事業箇所
大槌町
大槌
大ヶ口
新大槌トンネル
大槌第2トンネル
大槌第1トンネル
大槌川
小鎚
桜木町
小鎚川
新町
末広町
大町
本町
上町
栄町
須賀町
新港町
港町
安渡
三陸鉄道リアス線
大槌漁港
300 m

■事業概要図



■工事完成